

各領域の「授業科目」の概要

領域	授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
地 域 健 康 シ ス テ ム 看 護 学	地域看護学Ⅰ 教授 西嶋真理子	特 論	地域看護学が対象とする領域の中で特に集団の健康支援のための理論と看護実践について学び、地域、学校、職場等の生活の場で、集団全体の健康のレベルアップのために応用できる援助技術を追究する。それにより、人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるプロセスを支援するために必要な地域看護ケアの展開方法と技術を学修する。
		特別演習	地域で生活する人々の健康の向上をめざして、地域看護学の領域の中でも特に個人、家族、集団のニーズ分析、ニーズに合った介入方法、組織的働きかけ、社会資源の開発等について、国内、海外の文献を活用して、討議する。また、地域看護ケアの評価についても演習をとおして学修を深める。
	地域看護学Ⅱ 教授 藤村 一美	特 論	地域看護学の主要な理論や概念を学び、多様なライフサイクルや健康レベルにある個人・集団・コミュニティを対象とした地域看護活動のあり方、課題や展望について学修する。特に、コミュニティ概念の理解、地域の健康課題を明らかにするための情報収集とアセスメントの方法、活動計画、実施、評価方法について、最新の先行研究、保健統計データの解説、先駆的事例、討議等を通じて理解を深める。
		特別演習	地域看護学における国内外の研究の動向と課題を文献講読、討議により学修するとともに、地域保健活動のプログラムやシステムを開発、評価するための介入研究のあり方について探求する。
	高齢者看護学Ⅰ 教授 陶山 啓子	特 論Ⅰ	高齢者看護に関わる諸理論や概念を学修し、高齢者の心理・社会性や健康上の課題と、高齢者の潜在能力を引き出しQOLを高めるために必要な看護について理解を深めるとともに、適切な倫理的意思決定に基づいた看護が実践できる能力を養う。さらに、老人看護専門看護師の役割・機能について理解する。
		特別演習Ⅰ	慢性期～回復期の複雑で多様な疾病や症状及び健康障害をもつ高齢者とその家族への看護を実践するために必要な理論やモデルについて学ぶとともに、高齢者の病態や症状、高齢者及び家族のセルフケア能力等を総合的にアセスメントし、高齢者の意思と暮らし方を尊重した援助が実践できる能力を養う。
	高齢者看護学Ⅱ 講師 小岡亜希子	特 論	高齢者の発達課題及び環境との相互作用について理解し、高齢者観を深めるとともに援助者のあり方を考える。さらに、高齢者のその人らしい生活を支援するために、理論に基づく援助方法を学ぶ。
		特別演習	高齢者の包括的な機能評価の意義と方法を理解し、対象者が必要としている看護援助を明確にする。さらに、排泄及び摂食嚥下機能に関する機能評価の方法と機能に応じた援助方法について理解し、研究成果の看護実践への活用について検討する。
	在宅看護学 講師 吉田美由紀	特 論	在宅看護の対象者のニーズとその対象を取り巻く地域社会環境や、QOLの高い在宅療養生活を支援するための在宅医療や在宅ケアについて学修する。また、地域社会環境の違いが在宅看護の対象者に与える影響について理解を深め、在宅医療及び在宅ケアの質の均てん化の方策や質の評価方法について考察する。さらに、柔軟な思考や創造性豊かなディスカッションにより、これからの地域ケアシステムのあり方についての知見を養う。
		特別演習	特論で得た視点をもとに、在宅看護学における国内外の研究の動向や課題について文献検討およびディスカッションを通して学修する。また、関心領域の過去の文献を精読することにより、研究課題を焦点化し、課題を明らかにするための適切な研究手法について理解を深める。

領域	授業科目及び担当教員		授業科目概要
地域健康システム看護学	老年精神地域 包括ケア学	特 論	<p>現在、高齢者を取りまくわが国あるいは世界の現状、今後わが国が推進しようとしている施策について概観し、高齢者、特に認知症の人とその介護者についての理解を深め、医療人のプロとして如何に関わるかについて学修する。認知症を呈する代表的な疾患について学ぶとともに、認知機能障害やうつ、妄想、意識障害などについて考えられる心理的、あるいは神経基盤について考えながら、エビデンスとナラティブの両面からアプローチできる知識と知恵の修得を文献、症例検討などを通して目指す。</p>
	教授 谷向 知	特別演習	<p>医療・介護あるいは地域・在宅の現場で感じられるさまざまな問題、疑問を研究テーマに取り上げる。日常の疑問点を検証し、直観を確証に発展させるために、評価法や過去の文献を学び、研究をデザインし、データ収集し、ディスカッションを行う。認知症看護、老年看護の専門職として確信を持って臨床現場で看護・介護指導、多職種との建設的な意見交換に還元されるエビデンスとコミュニケーションスキルを身につけることを目指す。</p>
	地域精神 看護学	特 論	<p>精神看護学が対象とする事象のうち、各自の看護実践の中でとくに問題解決のために働きかける必要があると認識していることや、地域で生活する障害児者や認知症者、及びその家族の生活支援についてとりあげる。諸理論や先行研究に基づいて現状を把握し、知識を修得するとともに、看護上の課題を明確にする。また、参加者による意見交換から様々なアプローチ法について検討する。</p>
	講師 柴 珠実	特別演習	<p>地域でのフィールドワークを実施する。特論で得られた視点を持って臨み、現地でのディスカッション等の成果を含めてレポートをまとめ、研究課題を明確化する。</p>
基盤・実践看護学	基盤看護学Ⅰ	特 論	<p>健康状態／生命過程に対する人間の反応に関連する理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッションを通して、それぞれの関心領域における看護実践の方法や課題を明らかにする。また看護に関わる概念の構造と機能を明らかにする方法を学び、臨床実践での活用について学修を深める。</p>
	教授 永田 明	特別演習	<p>特論で得た視点を元に、それぞれの関心領域における疑問点について、看護実践の事例検討会、国内外の研究論文の精読を通して研究課題の明確化を目指す。また、研究課題に対応するさまざまなアプローチの哲学的背景及び方法論を学修する。</p>
	基盤看護学Ⅱ	特 論	<p>基礎看護技術に関する研究を概観し、安全なケアを実践するための根拠や倫理的課題を明確にし、今後の研究課題となり得る事象について探求する方法を考察する。この過程を通して、論理的思考を醸成する機会とする。</p>
	教授 相原ひろみ	特別演習	<p>特論で得た課題について、解決のための方法論について検討するための演習を行い、研究課題を明確にして研究計画に資する知見を得る。</p>

領域	授業科目及び担当教員	授 業 科 目 概 要
基 盤 ・ 実 践 看 護 学	基盤看護学Ⅲ 講師 城賀本晶子	特 論 対象の性格特性は、健康の維持と回復を図る上で重要な役割を演じている。性格特性とは何か、如何に区分できるか、代表的な方法論を文献的に提示して、背景要因としての重要性を論じる。
		特別演習 自我状態の研究から確立された性格特性、さらに自我透過性調整力、ストレス対処行動様式などを取り上げて、性格特性について演習する。
	成人看護学Ⅰ 教授 山内 栄子	特 論 成人期にある人の看護に関する概念についてのプレゼンテーションやディスカッションを通して、慢性・長期的あるいは急性的な健康問題を抱える成人と家族の特徴と看護実践について探求する。
		特別演習 成人看護領域の関心のある課題についての文献検討を通して、慢性・長期的あるいは急性的な健康問題を抱える成人と家族の支援に関する臨床上の疑問から研究課題を明確にし、研究計画書の作成につなげる。
	成人看護学Ⅱ 教授 二井谷真由美	特 論 がんや慢性疾患を患う人やその家族、急性増悪などの急変に伴い救急・集中治療を受けることとなった患者とその家族の状況を適切に把握し、現在生じている問題・課題に対して解決策を導くための具体的方法について学修する。
		特別演習 臨床の場で感じてきた問題・課題を研究テーマに取り上げ、先行研究のクリティークやディスカッションを通して主観から客観に転換する方法を学修する。さらに、問題解決につながる研究をデザインする方法を修得することを目指す。
	ウィメンズ ヘルス看護学 教授 宮内 清子	特 論 ウィメンズヘルスの歴史的変遷や役割を理解し、様々な概念や理論について学修する。女性のライフステージ各段階において、女性特有のホルモンの変動にかかわる心身の変化や対策、さらに女性特有とされる疾患に対するセルフケアなど女性と取り巻く家族も含めた健康支援について理解するとともに、対象のニーズに合わせた支援の在り方を科学的根拠に基づいて探究する。
		特別演習 現場の事例や研究論文の抄読を通して、女性の生涯の健康と性と生殖に関する支援、プレコンセプションケアの在り方など科学的根拠に基づいた援助を探索する。また働く女性におけるライフステージごとの健康課題について理解を深めるとともに、多職種連携、出生前診断や生殖補助医療などの倫理的課題の探究能力を養う。
	小児発達 看護学 教授 薬師神裕子	特 論 小児を対象とした成長発達、セルフケア、コーピング、プリパレーションについての理論やモデルを用いて、子どもの健康状態についてアセスメントを行い、小児看護の専門的な支援方法について学ぶ。また、小児をとりまく家族を支援の対象者として捉え、家族発達理論・家族システム理論、家族ストレス理論などの諸理論について学び、子どもや家族が必要としている援助方法を学修する。
		特別演習 小児看護の臨床場面において、臨床判断に基づき状況に応じた援助を行うための専門的な方法について学ぶ。文献や実践現場での具体的事例から子どもや家族の行動の理解と臨床判断の過程を分析し、小児看護の専門的な援助方法や技術、介入の効果についてディスカッションできる。小児と家族を対象とした看護研究の特殊性と基礎的知識や手法について学ぶ。

領域	授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
共 通 科 目	看護教育論	教授 陶山 啓子	看護教育制度の変遷や現状の課題及び生涯にわたって主体的に専門性を高めていける看護職育成のために必要な理論と方法を学修する。学修援助型の教育における教育者のあり方について、自らが経験した場面を活用して検討する。さらに、基礎教育、卒後・継続教育、患者教育における教育プログラムの作成をとおして、看護職が教育的機能を果たすために必要な基本的知識・技術を修得する。
	看護管理論	教授 西嶋真理子 非常勤講師 青山ヒフミ 松浦 正子	現在の医療制度などの外部環境を踏まえながら、看護管理のプロセスとしてのインプット（人、物、資金、情報、時間）、プロセス、アウトプット（看護成果、患者満足、職務満足、質改善、エンパワメント）について分析、探究する方法を学修する。そのために必要な思考を組織論、マネジメント理論、人的資源活用論、リーダーシップ理論などに関する文献学修をとおして養う。
	看護理論	教授 永田 明	卓越した看護実践の基盤となる看護の諸理論について理解を深めるために必要な知識を教授する。講義では看護実践または研究に影響を及ぼしてきた思想と理論の歴史の変遷を理解し、その存在論的、認識論的、方法論的前提を分析する。またそれらの実践事例への適用を試み、その批判的検討を通じて、臨床看護の実践、理論、研究の基礎となる看護の理論的基盤を模索する。
	看護研究方法論	教授 薬師神裕子 山内 栄子 相原ひろみ 宮内 清子	看護活動を効果的に展開するためには、研究的視点を持ち、看護の実践知を論理的・体系的に捉え、看護実践の改善に役立てていくことが必要となる。本科目では、看護における研究の意義を理解し、看護研究のプロセスを理解する。また、看護研究に必要な研究方法、研究デザイン、研究倫理について学び、研究計画書を作成する基礎的知識を修得する。
	看護研究演習	教授 山内 栄子 講師 城賀本晶子	看護研究における研究デザインや前提となる条件、科学的推論方法について学び、信頼性・妥当性の検証、データの活用方法を具体的かつ実践的に探求する。
	コンサルテーション論	講師 吉田美由紀 非常勤講師 添田百合子	コンサルテーションの意義や方法等について受講生の経験を踏まえ、プレゼンテーションや討議をとおして学修する。さらに、コンサルテーション活動を行うために必要な医療専門職、保健や福祉領域の専門職に対して相談し、調整できる基礎的な実践力を修得する。
	看護倫理	教授 相原ひろみ	倫理調整を実践する能力を獲得するために、その基盤となる倫理学に関する知識と倫理的問題を分析し、解決に導く方法論を修得する。授業では、倫理学、生命倫理学、看護倫理学の歴史の変遷や基本概念と倫理的意思決定支援に関する方法論を学ぶ。そして、看護実践で直面する倫理問題を解決するために必要な分析方法、倫理的なアプローチの方法、他の職種との倫理的調整の方法を探求する。
	看護政策論	教授 西嶋真理子 藤村 一美	人々のニーズに寄り添い、QOLを高める保健・医療・看護を実現するために、看護の質の向上を政策的に推し進めていくための仕組みや看護政策の機能を理解する。看護の歴史的展開過程を踏まえ、将来を展望し、現行の法制度における課題を分析する視点を持ち、演習をとおして課題解決や健康政策策定のための基礎的能力を修得する。
	地域包括ケア基礎論	教授 陶山 啓子 西嶋真理子 薬師神裕子 二井谷真由美 宮内 清子 講師 小岡亜希子 柴 珠実 吉田美由紀	講義や文献検討を通して地域包括ケアの概念や発達段階各期、公衆衛生領域における地域包括ケアの必要性について学修する。また、フィールドワークやディスカッションを通して、地域医療における現状と課題について検討する。
	統計学	教授 藤村 一美 非常勤講師 矢田 浩紀	根拠にもとづく医療・看護・保健活動、及び看護研究（量的研究）において、必要な統計学やデータ処理の考え方、統計手法について教授する。統計ソフトSPSSを活用し、実際に統計解析への理解を深め、研究デザインやデータの特性に適した統計手法の選び方について学修する。

領域	授業科目及び担当教員		授業科目概要
共通科目	臨床薬理学	教授 谷向 知 非常勤講師 重松 裕二 八杉 巧	薬理学の基本的な知識を元に、使用されている薬剤の特徴、作用様式、副作用などを理解する。さらに実際に薬物療法を受けている患者のモニタリング、症状管理、服薬管理、服薬指導について具体的に学び、看護実践に活かす能力を高める。
	フィジカルアセスメント	教授 二井谷真由美 非常勤講師 重松 裕二	看護実践に直結する対象からの看護情報を的確に収集し、アセスメントするための知識や技術を学ぶ。
	病態生理学	教授 二井谷真由美 谷向 知 非常勤講師 重松 裕二 八杉 巧	主要な症候の起こるメカニズムを理解し、主な疾患と症状との関連、使用している薬剤との関連について理解を深め、エビデンスに基づいたアセスメントができる能力を養う。
	インクルーシブ社会実現に向けて	教育・学生支援機構 講師 上月 翔太	社会・組織における個人の多様性とは何かを学習し、多様性があることの意義、個人の多様性をめぐる課題についても学ぶ。
	教授法入門	教育・学生支援機構 講師 上月 翔太 教育・学生支援機構 教授 中井 俊樹 カワモト・ジュリア・シカ	大学院生やポストドクターが自らの専門分野の学識を他者に適切に教授するために必要な知識、技術、態度について学習する。

老人看護専門看護師養成プログラム

領域	授業科目及び担当教員		授業科目概要
専門分野基礎科目	高齢者看護学Ⅰ特論Ⅰ	教授 陶山 啓子	高齢者看護に関わる諸理論や概念を学修し、高齢者の心理・社会性や健康上の課題と、高齢者の潜在能力を引き出しQOLを高めるために必要な看護について理解を深めるとともに、適切な倫理的意思決定に基づいた看護が実践できる能力を養う。さらに、老人看護専門看護師の役割・機能について理解する。
	高齢者看護学Ⅰ特論Ⅱ	教授 陶山 啓子	高齢者の生活上のニーズを把握するために、総合機能評価に用いられる評価指標とその使用方法について理解する。また、ICFの提唱するモデルや総合機能評価を活用した看護実践について学修し、包括的なアセスメントの必要性や活用方法について理解する。
	高齢者病態治療論	教授 谷向 知	高齢者に起こりやすい疾患や判別を要する症状の病態・検査・治療について学修し、適切な判断に基づく看護を実践するために必要な知識・技術を修得する。
	高齢者生活援助論	教授 陶山 啓子	複雑な問題を抱える高齢者の健康課題や生活機能障害について、疾患の影響や診断・治療をふまえた身体・心理・社会機能のアセスメントに基づき、高齢者の潜在能力を引き出し、QOLの向上を意図した看護援助を選択し、実践できる能力を養う。
	高齢者支援システム論	講師 小岡亜希子	日本の保健医療福祉施策の変遷、現状と展望を学ぶとともに、介護保険制度におけるサービス、制度外サービス及びソーシャルサポートの内容についての理解を深め、高齢者のニーズに応じたサービスが選択できる能力を養う。さらに、高齢者のケアシステムについて、地域の先進的な取り組みからシステム構築のプロセスを学び、高齢者ケアに必要なサービスやシステムについて提案できる能力を養う。
専門分野専門科目	高齢者看護学Ⅰ特別演習Ⅰ	教授 陶山 啓子	慢性期～回復期の複雑で多様な疾病や症状及び健康障害をもつ高齢者とその家族への看護を実践するために必要な理論やモデルについて学ぶとともに、高齢者の病態や症状、高齢者及び家族のセルフケア能力等を総合的にアセスメントし、高齢者の意思と暮らし方を尊重した援助が実践できる能力を養う。
	高齢者看護学Ⅰ特別演習Ⅱ	教授 陶山 啓子 谷向 知	認知症の原因疾患の特徴や薬物療法について理解を深めるとともに、認知症の病期や病態及びBPSDの誘因や要因を適切にアセスメントし、ケアを実践する能力や、認知症をもつ人とその家族が安全で安心して暮らせるための環境調整する能力を養う。

領域	授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
実 習 科 目	高齢者実践 看護実習Ⅰ	教授 陶山 啓子 講師 小岡亜希子	医療機関において慢性期～回復期の複雑で多様な疾病とその症状及び健康障害をもつ高齢者・家族に対し、疾患の病態生理と治癒過程に基づいた検査・診断・治療の結果から、医学的判断を理解する。その上で、家族介護力と年齢に関連するセルフケア能力の低下、患者自身の意思を総合的にアセスメントし、在宅（施設）を見据えて、高齢者の健康レベルに応じた看護実践を提供する力を向上させる。
	高齢者実践 看護実習Ⅱ	教授 陶山 啓子 講師 小岡亜希子	認知症を持つ高齢者の認知機能、認知症の種類、及び重症度を判断できる能力を養うとともに、認知症高齢者の抱える複雑で解決困難な健康問題や生活上の課題に対する高度な実践能力を獲得する。また、認知症を持つ高齢者と家族へ必要な医療とケアが提供されるために、多職種との協働・連携及び調整する能力を身につける。 また、老人看護専門看護師へのシャドーイングを基に、専門看護師が実際に果たしている患者・家族及びスタッフに対する教育、相談、調整、研究活動、倫理調整の機能について理解を深める。また、老年看護の質の向上に向けた教育を実施、評価し、専門看護師の基盤となる能力を修得する。
	課題研究	教授 陶山 啓子	高齢者看護を実践する中で生じた疑問や課題について、研究テーマを設定し、研究計画を作成し、研究を実施することによって、専門看護師として実践上の課題を解決するための研究能力を養う。
共 通 科 目 A	看護教育論 看護管理論 看護理論 看護研究方法論 コンサルテーション論 看護倫理 看護政策論		共通授業科目参照

病院で教育を担当する看護師のための看護教育プログラム

領域	授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
共 通 科 目 C	看護キャリア 形成支援論	教育学研究科 教授 白松 賢 教育・学生支援機構 准教授 高橋 平徳	看護職のキャリア開発に必要な専門的知識や技能を深化・拡充するため、理論と実践の往還に基づく指導・支援方法を学ぶ。(1)組織レベルでの発達を促すライフサイクル・モデルと、個人レベルでの発達を促すライフヒストリー・モデルのキャリア開発方法を学習し、看護組織の向上に寄与する資質能力を獲得する。(2)体験学習や省察的実践の手法を学び、人生史レベルと行為レベルの、二つの省察を組み合わせ、体験から学びと成長を促す省察的専門家としての資質能力を獲得する。
	看護継続教育 実践論	教育・学生支援機構 教授 中井 俊樹 総合臨床研修センター 助教 内藤知佐子	看護継続教育に用いられる講義・演習・シミュレーション・OJT などの特徴と具体的な活用方法について学ぶ。教育全体の設計、評価、改善の各段階での具体的な方法を身につける。また、看護師育成に必要な個別指導、集合研修などの企画・運営方法や、体験学習の効果的な実践方法を習得する。さらに教育対象者が主体的な学びを促すための支援方法を身につけ、看護継続教育を効果的に提供する実践能力を養う。

領域	授業科目及び担当教員		授業科目概要
専門分野専門科目	看護継続教育特論	教授 永田 明 相原ひろみ	看護継続教育に関する理論や研究を概観し、対象者のニーズに沿った教育設計・教育実践・教育評価・教育改善に関する課題を明確にする。また、それらの課題を解決するための方法や研究の科学的アプローチについて学修を深める。
	看護継続教育特別演習	教授 相原ひろみ 永田 明	特論で得た課題について、解決のための具体的な方法論について検討するための演習を行い、研究課題を明確化し研究計画を作成する知見を得る。
実習科目	看護継続教育実習Ⅰ	教授 永田 明 相原ひろみ	履修者が所属する施設でのフィールドワークを通じて看護組織のレディネス評価を行い、組織の教育のニーズを理解する。そのうえで3観（教材観・生徒観・指導観）に沿った研修の目標設定、教育設計の立案を行う。
	看護継続教育実習Ⅱ	教授 相原ひろみ 永田 明	実習Ⅰによって立案した教育系設計を、履修者が所属する施設の看護組織に対して教育を実施し、その結果を評価し、教育の改善について検討する。実際の教育体験を行うことで、病院で教育担当をする看護師の基盤となる能力を習得する。
	課題研究	教授 永田 明 相原ひろみ	臨床における看護実践や看護継続教育を実践する中で生じた疑問や課題について、研究テーマを設定し、研究計画を作成し、研究を実施することによって、臨床看護師あるいは病院で教育担当をする看護師として実践上の課題を解決するための研究能力を養う。
共通科目A	【必修】 看護研究方法論 看護教育論 【選択必修】 看護研究演習 看護管理論 看護理論 コンサルテーション論 看護倫理 看護政策論		共通授業科目 参照
共通科目B	【選択必修】 臨床薬理学 フィジカルアセスメント 病態生理学		共通授業科目 参照

(2024年4月1日現在)